

THE Y'S MEN'S CLUB OF NASU NETWORK NASU

CHARTERED 1995



那須ワイズメンズク

2016~2017年度 No.213

10月 月報

那須クラブ会長 主題
拓こう 築こう ワイズの世界



強調月間：EMC/E
YES



9月(日本文化にふれる「茶道」)例会 9月22日(金) 於：遠山宗定師宅

2017~2018年度 主題
 国際会長：(IP) Henry J Grindheim (ノールウェイ)
 「ともに、光の中を歩もう」
 アジア地域会長：(AP) Tung Ming Hsiao(台湾)
 「ワイズ運動を尊重しよう」
 東日本区理事：(RD) 栗本 治郎(熱海)
 「広げよう ワイズの仲間」
 北東部長：鈴木 伊知郎(宇都宮東)
 「距離に負けるな北東部、各クラブの個性を磨きましょう」

クラブ役員 事務局
 会長：田村 修也
 副会長：村田 榮子
 河野 順子
 書記：内海 研治
 会計：村田・鈴木
 担当主事：内海 研治
 ブリテン：田村・村田

9月例会データ(出席率：83.3%)
 在籍者 6名
 例会出席者 5名 メネット 3名
 ゲスト 2名

今月の聖句
 死よ、お前の勝利はどこにある
 のか。死よ、お前のとげはどこ
 にあるのか。

一コリント15:55

10月 Happy Birthday

なし

巻 頭 言

【どこに向かい生きるか】

担当主事・書記 内海 研治

ミッションとは最初の一粒の種であり、この種がなければ芽、幹は育たず、花、実は咲かないものであるほど、根源的で絶対的なものである。しかしその反面、月日が経ち、様々な人の手を経ると、その種が何だったのかがわからなくなってしまいうさも同時に孕んだものである。種をまく場所やタイミング(ビジョン)、育て方(アクション)を間違えることによって、ミッションは死滅する。もしこの種が何だったのかがわからなくなったとき、人間の都合とエゴに支配された、架空のものとなっている。つまり、ミッションからすべてが始まるのである。ミッションの解釈を間違ったり、ぼやけたり、忘れたりした時に、ビジョンとアクションは必然的に的外れになる。そういう意味でミッションはビジョン、アクションに比べて比較にならないほど重要なものであり、ミッションなしには何も生まれない(育たない)ことになる。

どこに向かい生きるかということ(ミッション)は、世界と私の間に普遍的な真理があると考えている。真理とは、どれほど時間が経過したとしても、またどの場所・空間・次元によっても変わらないことであり、どのような人・ものにでもあてはまる本当のことである。本当に大切な価値に気づき、真理の中に生きていくことができれば、私たちは世界が目指すべきミッションに向かうことができるのではないだろうか。

お金やモノは、所有すればするほど、それを失うことを恐れて不安になり、「もっとほしい」と連鎖に苦しむこともあるが、目に見えないものは、増えれば増えるほど、それを他者と分かち合いたいと思わせてくれるものである。目に見える豊かさを分かち合えず、分かち合いの中にある豊かさをみつめれば、その豊かさはなくなることはない。

YMCAのミッション、さらには世界のミッションをとらえ、私と世界の間にある真理とは何か、同じ「いのち」として、どこに向かうべきなのか、与えられた役割の中で見出していきたい。そして私から、とちぎYMCAへ、世界へと、確かなミッションを射抜くアクションの輪を繋げていくことを目指したい。

9月(日本の文化にふれる「茶道」)例会

担当主事 内海 研治

日時：9月22日(金) 14:30~17:00

場所：遠山宗定師匠茶室「清雪庵」宅

参加者：田村会長、河野副会長、村田副会長、原田、内海の各メン。メネット：田村、村田、原田
ゲスト：遠山宗定師匠、宮崎照子(河野副会長友人)
合計：10名

9月例会は、「日本文化にふれる」として茶道体験をしました。昨年と同じく遠山宗定師匠宅「清雪庵」にお邪魔し、作法の一つ一つの意味をご説明いただきながら、お茶を味わうことができました。私は茶事の前に田村さんと「清雪庵」の広いお庭を歩きました。植えられている木々や、きれいに咲く花々、名前を教えていただきながら季節を感じる事ができました。普段は見過ごしてしまうとても小さな草花にも名前があり、役割があることを知りました。みんな同じのちであり、それぞれの部分が一つの身体であるように思えました。

茶室には「にじり口」から入りました。茶道初体験の私にとっては、「にじる」という言葉も馴染みがなく、膝をつくようにして少しずつ次第に進むとのことですが、ここには大きな役割があることを教えていただきました。「天下人でもにじり口をくぐった後はすべて平等な人間になる」つまり、にじり口から入るものは武士も商人も誰もが身分差がなく、同じように頭を下げて入り茶室の中では皆平等に振舞われるということを表しているとのこと。にじり口の前には刀掛けがあることも教えていただきました。

お菓子や茶碗は少し早めの季節のものを用いるとのこと。茶碗は出されたときに自分の方に向いているのが正面で、正面を避けて飲むことを教えていただきました。飲んだあとに模様を拝見いたしました。私のものは海の波の様子が描かれておりました。

茶室の中もご説明いただき、洗練された設計があることに気づかされました。必要でないものを削ぎ落としたシンプルさ、自然を愛し自然な姿を求めるありのままの心、今在ることに感謝し、時の移ろいを肌で感じる姿勢、清らかな美しさを感じ学ぶことができた茶道体験でした。遠山先生、ありがとうございます。これからも機会があればと願います。

10月第2例会(役員会)報告

日時：10月6日(金) 18:30~

場所：ココス西那須野乃木店

出席者：田村会長、河野副会長、村田副会長、内海書記、田村メネット

協議事項

1. 9月例会の反省について

いろいろと勉強になる一時であった。ユースリーダー

の参加がなかったのは少し残念である。次の機会ではできれば囲炉裏のあるところに実施。

2. 10月(第1)例会について

10月14日(土)15日(日)に行われるアジア学院の収穫感謝の日の行事に参加。バザーを行い収益金をアジア学院に捧げる。

3. 10月第2例会(役員会)について

10月6日(金)午後6時30分よりココス西那須野乃木店にて開催する。

協議内容は10月例会、11月例会、ブリテンの原稿、その他

4. 10月第2例会(バザーの準備)について

10月13日(金)午後4時より田村会長宅にてバザーの準備を行う。

5. 11月第1例会について

11月4日(土)午前10時から那須街道美林での植樹例会を行う。

6. 11月第2例会(役員会)について

日程の関係で11月17日(金)に行う。議題は、12月例会、ブリテンの発行等。

5. その他

- ・とちぎYMCA(さくらんぼ幼稚園)のバザーが11月3日に行われる。
- ・シイタケ昆布を購入する。
- ・新しいYMCAのマークに10月より変更される。それに伴いTシャツが伸長される。アジア学院のバザーでお披露目する。

北東部会・宇都宮東クラブ25周年記念例会

報告：村田 榮

9月9日(土)午後1時から宇都宮グランドホテルで開催された、北東部会・宇都宮東クラブ25周年記念例会に田村会長、原田メン、原田メネット、村田の4名が参加した。参加者は、東日本区理事栗本ワイズをはじめ、北海道から静岡までの72名であった。



部会は、ナーセレモニーで始まり、部長挨拶、理事挨拶、バ各クラブの報告が行われた。

2016年ブースター賞(年間に3名以上のメンバー獲得)が石巻広域クラブの3名(平井、清水、日野)に贈られた。

講演会は、東クラブのメンバーであり、公益社団法人認知症の人と家族の会栃木支部長の金澤林子氏より「認知症になっても繋がる人(家族と当事者に寄り添い)」と題して石倉サロンで行われている活動についての報告があった。その後、宇都宮東クラブ設立25周年記念例会が行われた。おいしい食事をいただきながら和気あいあいとした会でした。食事中Heaven's Shout ゴスペルコンサートがあった。Heaven's Shout は、病に苦しんでいる人特にがん患者人たちに癒しの言葉を伝える活動をされています。

今後の予定

・10月(第1)例会

日時：10月14日(土)・日(日)

場所：アジア学院

内容：アジア学院収穫感謝の日にバザーを実施

・10月役員会(第2例会)

日時：10月6日(金)午後6時30分～

場所：ココス西那須野乃木店

内容：10月(アジア学院バザー)例会、11月例会(植樹例会)、10月号ブリテンの発行等。

日時：10月13日(金)午後4時～

場所：田村会長宅内容：バザーの準備

・11月(植樹)例会

日時：11月4日(土)10:00～13:00

場所：那須街道美林駐車場

旧西那須野(那須西原)の緑と水(55回)

田村修也

このようにして、明治18年4月1日付けで太政大臣三条実美から念願の指令が下付され、那須疏水大水路開鑿の工事着工が現実のものとなりました。ここで別の資料による視点から、もう一度那須疏水開鑿の願いが政府に認可されるに至った経緯を振り返って見たいと思います。

まず第1回目の上京と運河予定線の測量についてです。飲用水路は開通しましたが、印南さん矢板さんは当初の運河計画を諦めてはいませんでした。すでに飲用水路の完成が間近い明治15年(1882)10月中、印南さんと矢板さんは「那須郡細竹村地内那珂川ヨリ塩谷郡氏家駅地内鬼怒川二達スル通船水路測量之儀請願」を藤川為親栃木県令あてに提出しています。この内容は、福島県安積疏水工事にあたって、農商務省疏水掛の一行が那須野が原を通行する際に、疏水の測量術を施してくれるように農商務省に上申していただきたいという内容のものでした。これは実現しな

ったようですが、印南さんと矢板さんが飲用水路の完成を目前に控えている中であっても、決して運河を断念していなかったことがよく表れています。約1年後の明治16年(1883)10月になって、印南さんと矢板さんはついに上京して運河開鑿等について政府要人への陳情・請願を展開することになりました。上京の目的は運河開鑿を第一としながらも、印南さんが社長、そして矢板さんが幹事をやっていた那須開墾社関係、特に東京の株主を訪問したり、新たな株主を募集することも大きな目的でした。印南さんと矢板さんは10月7日に出発、栃木まで人力車、栃木から蒸気船に乗って上京しました。そして神田の三河屋に宿を定めて、連日陳情や株の勧誘などを行いました。印南さんと矢板さんの上京メモには、訪問予定者と思われる政府高官など33名が記されています。その主だった人物は、松方正義(大蔵卿)、伊藤博文(参議)、西郷従道(農商務卿)、大山巖(陸軍卿)、佐々木高行(工部卿)、山県有朋(参議)、徳大寺実則(宮内卿)、有栖川宮熾仁親王、勝海舟(元海軍卿)、大隈重信(参議)、西園寺公望(後文部大臣)、品川弥二郎(農商務大輔)、杉孫七郎(宮内大輔)、吉田清成(外務大輔)、吉井友実(日本鉄道社長)三島通庸(栃木県令)、マックスフェスカ(お雇外人)といった人々です。これらを見てみますと、実に当時の政府の最も重要なポストに就いている方々であって、今日ではそのほとんどが歴史上の人物であります。これらの訪問予定者のすべてに面会したか否かは不明ですが、その後の大水路開鑿賛成者名簿から見まして、ほぼ実現したものと思われまふ。この内の何人かは既に印南さん矢板さんと面識があったことは確かですが、これだけの要人を訪ね歩くことは容易な事ではなかったはずで、これは印南さん矢板さんにとって当初の株主であった地方農村指導者の没落後の那須開墾社経営の建て直しと、運河開鑿をどうしても実現させようという強い決意と情熱があったことを如実に示すと共に、印南さん矢板さんの驚異的な、いや想像を絶する不屈の勇気と行動力の素晴らしさを示すものであります。西那須野教会創設者の田嶋弥三郎さんたち群馬県島村の養蚕業の指導者の方々が、明治10年に横浜から船で太平洋を横断し、サンフランシスコから開通間もない大陸横断鉄道でアメリカを横断しニューヨークへ、そして大西洋を船旅でイギリスへ、更にフランスに上陸してイタリアのミラノまで行って、事務所を開設して、蚕種の交易を行ったという事実にも見られるように、明治の農村指導者のスケールの大きさには圧倒されます。 次月号に続く

西那須野幼稚園だより

学校法人 西那須野学園 西那須野幼稚園
理事長・園長 福本光夫

9月17日に日本特殊教育学会に参加してきました。基調講演は1度拝聴したかった杉山登志郎さん(福井大学子どものこころ発達研究センター・浜松医科大学)です。発達障害や愛着障害についての日本を代表する児童精神科医の1人です。

彼は、「性的虐待における後頭葉の萎縮、及び脳梁の萎縮、暴言被曝による側頭葉の増大、体罰による前頭前野の萎縮など、DV(家庭内暴力)目撃による視覚野の萎縮、複合的虐待における海馬の萎縮など(友田2015)」、「被虐待児の脳波の異常率は発達障害児より高い」と報告しました。つまり、最近の脳科学の成果の一部によると、虐待を受けた子どもの脳は、器質的、機能的な変化が起きるといえるものです。これにより、乳幼児期はその子ども自身の現在と将来にとってとても大切な時期であることが脳科学的に根拠に基づいて報告されました。

保護者の皆様は子育てで大変ななごさされていると考えます。野球のキャッチボールは、相手の胸に返球するのが基本です。私たち大人は、どんな時も子どもたちの気持ちに寄り添い、きちんと応答する大切さをあらためて考えさせられました。(しらゆり 2017.9.22 加筆修正)

学校法人アジア学院だより

学校法人 アジア学院
校長 荒川 朋子

アジア学院の学生選考

アジア学院では毎年9月頃から次年度の学生の選考が始まる。この学生選考のプロセスは長く複雑である。また数あるアジア学院の作業の中で、最も重要な作業のひとつである。なぜなら、アジア学院の研修は職員が作り上げて一方的に提供するようなものではなく、研修に加わる学生、ボランティア、職員、さらにはキャンパスにいる家畜、野菜・作物と共に作り上げていくもので、参加する学生の質が高ければ、自ずと研修の質も上がってくるからである。次年度の研修は学生選考から始まっていると言っても過言ではないのだ。

アジア学院の学生選考のプロセスは簡単に言うと以下のようになっている。まず応募者は個人では応募できない。必ず農村開発に関わる団体、組織、グループ等に所属していて、最低でも3年間の農村開発の現場での経験が条件である。応募はまずその所属団体がアジア学院に応募をしてくるところから始まる。アジ

ア学院はその所属団体の活動や実績をよく調べ、その団体に所属するスタッフ（つまりアジア学院に送りたいと思っている人物）が、アジア学院で研修を受けることによって十分にそれを自分の団体、また対象とする地元の人々のために活かすことができる団体であるかを精査する。また同時にその団体がアジア学院に送りたいと思っている人物について紹介してもらう。その人を送りたいと思う理由、経験、実績、動機、将来の計画などについて書いてもらい、アピールをしてもらうのである。それが第一ステップである。

この第1ステップを通過した団体に初めて応募用紙が送られる。その応募用紙の質問事項は多岐に亘り、その中には活動する地域の社会、経済状況、幼い頃の経験、自分の目指す人物像、高見先生のエッセイを読んだ感想文、1日の典型的なスケジュールなども含まれる。日本にいる私たちは現地に行って面接をすることができないので、その人物について書面で伝えてもらえることはできるだけ多く伝えてもらうように努める。応募者も英語が達人な人ばかりではないので、さぞかし苦勞をされていることと思う。

この段階で最終選考に残る有力候補者が絞られてくる。そしてこのくらいの段階で、現地で卒業生が訪問できる範囲にいる応募者であれば、卒業生に依頼をし、現地での面接に臨んでもらうことになる。やはりどんなに書面でいいことが書かれていても、現実が書かれていたことと全く違っていることもあるからだ。百聞は一見に如かずである。卒業生は、時には丸1日かかりで悪路を走り続けて応募者に会いに行ってくれることもある。卒業生の協力には頭が上がらない思いである。

こうして卒業生による面接も終わると、いよいよ最終選考者が出揃う。毎年9月頃だ。ここまでの作業は学生選考担当職員とその補佐のボランティアたちによって何カ月にも亘って（時には数年がかりで）進められてくるのだが、ここから先は他の職員も加わっての作業となる。最終選考者を地域別に分け、それに合わせて職員も幾つかのチームに分かれ、各応募者に関わる書類を読み込んでいくのだ。普段の仕事をしながらになるので、この作業に大体1か月くらいを要する。地域別に分かれた選考チームが議論を重ねて応募者の評価をすると、その評価が今度は最終選考チームに上がってくる。この最終選考チームには各地域グループのリーダー、学生選考担当職員と校長が含まれる。最終選考チームは地域チームからの評価を受けてさらに議論し、応募者ひとりひとりについて最終評価を下す。これでようやく合格者が決定する。10月も終わる頃である。

学生選考はこれで終わるが、学生の招へい作業はここから始まる。世界の辺境の地から、海外に出るのはほとんど初めてという人たちを日本に3月末までに確実に来てもらうためには膨大な連絡や手続きが必要で、道のりは長い。学生選考担当者の忍耐強い仕事は永遠と続くのであります。

YMCAだより

【第30回ユースボランティア・リーダーズフォーラムに参加してきました！】

9月8日（金）～9月10日（日）に東京Ymca 山中湖センターにて第30回 ユースボランティア・リーダーズフォーラムが開催されました。ユースボランティアリーダーズフォーラムはリーダー歴が2年以内の経験の浅いリーダーを対象に野外活動の場を通して、「今、リーダーに求められること」を普遍のテーマとして行われているトレーニングキャンプです。東日本のユースリーダー31名が集まり、基調講演やプログ



ラムに参加し、子どもたちとの関わり方やグループワークなどについて学びを深めていきました。とちぎYMCA

からは3名のリーダーと1名のスタッフが参加しました。来年度はとちぎYMCAが主管となり、このプログラムを運営いたします。オールとちぎYMCAとしてご協力賜りますようよろしくお願いいたします。

【とちぎYMCA・那須YMCAの10月の予定】

- ・10/1（日） さくらんぼ幼稚園運動会
- ・10/7（土）－9（月） 全国YMCAリーダー研修会@広島YMCA

※とちぎYでは3名のリーダーが参加します。

- ・10/7（土） World Travel Kids@東武ワールドスクエア
- ・10/14（土） サタデークラブ@アジア学院（収穫感謝の日に参加）
- ・10/15（日） Yキッズ@鹿沼市自然体験交流センター（野外炊飯）
- ・10/21（土） わくわくトライキッズ（染め物体験）
- ・10/21（土）－22（日） ふじさんぼ（チャリティラン支援プログラム）
- ・10/25（水）－31（火） 英会話教室ハロウィン

ウィーク

※那須YMCAの付近を周り、トリック・オア・トリートを行います。

- ・10/28(土) トライ東ホーンテッドマンション
 - ・10/29(日) ウィンタープログラムキックオフ
- リーダートレーニング@宇都宮YMCA

ユースリーダーのつぶやきコーナー

1. 名前(リーダー名) 2. 学校名 3. 出身地 4. YMCAに入ったきっかけは? 5. 思い出に残った活動とその理由は? 6. 今後の進路は? 7. YMCAに一言

1. 大橋理乃(さわ)

2. 国際医療福祉大学・薬学科1年

3. 宇都宮

4. 子供が好きで、子供とかかわるボランティアがしたかったから



5. 夏の赤城グリーンキャンプ

初めてのことで大変だったけど、子供たちと宿泊することで1日の活動よりもっと仲良くなることのできたから

6. 薬剤師

7. まだYMCAに入って1年目ですが、これからも活動を通してたくさんの方のことを吸収していきたいと思えます!がんばります!

1. 車田かれん(てい)

2. 国際医療福祉大学・言語聴覚学科1年

3. 福島県

4. 子供が好きだから

5. 赤城グリーンキャンプ



2日間朝から晩までずっと活動するのは初めてで、大変な思いもあったが、その分、とても良い思い出になったから

6. 小児領域専門の言語聴覚士

7. 活動を通して、自分も成長出来るようにしていきたいです!これからもよろしくお願いします!

11月例会案内

2017年度

那須ワイズ11月植樹例会のご案内

九州地方の大豪雨災害罹災者の皆様には心から御見舞い申し上げます。嘗々と植林され、整備されてきた森林が、想像を絶する豪雨に対して、大地をしっかりと支えて耐え抜き、急激な雨水の流失を緩和させ、洪水による被害の拡大を防止している姿を、私たちは目の当りにしました。あの18年前の余世川大洪水の時もそうでした。改めて森林と私たちの生活の切っても切れない関係、その恩恵に守られている私たちの生活を考えさせられます。私たちがその森林造成の一環でも担う機会を提供して頂いている。塩那森林管理署の署長さんをはじめ担当者のお蔭に心から感謝いたします。

さて、皆様にはご多忙中にも充実した毎日をお過ごしのことと存じますが、11月恒例の植樹例会を下記により実施致しますので、お問い合わせの上ご出席下さるようご案内いたします。

記

1. 月日 11月 4日(土曜日)10時00分までに那須街道赤松林入口の駐車場に集合

(植樹等実施会場は2017年春に実施した場所付近の予定です)

2. 行先 那須街道「赤松美林」 塩那森林管理署指定植林地

3. 内容 植樹・保育・歩道清掃と秋の那須と那珂川溪谷探勝

4. 行程予定

9:30	西部須野教会・那須YMCAから車で出発
10:00	「赤松美林」着
10:30	赤松苗木の植え付けと保育
12:00	赤松美林周辺散策と歩道清掃
13:00	那須山麓の紅葉探訪
	現地解散

5. 費用 なし。必要なものは各自負担

6. 装備 個人装備:手袋(軍手)、タオルなど

7. 飲み物、おやつ等は各自自由に

8. その他 必要と思うもの

9. 参加者は全員保険加入をいたします

10. 塩那森林管理署の吉江総括森林整備官さん始め塩那森林管理署の皆様には今回も大変お世話になります。苗木・唐鍬等用具は森林管理署で準備して下さい。

小雨決行ですが、晴天になるように今からお祈り下さい。

※那須ワイズメンズクラブ会長田村修也(担当) ※全員保険に加入いたしますので、ご参加の方は田村(090-5546-6763)宛、10月27日(金)までにご連絡下さるようお願いいたします。